

センターだより

9月号

令和6(2024)年9月13日発行
吹田市立教育センター
大阪府吹田市佐竹台1-6-3
TEL 06-6170-1575
FAX 06-6170-1585
メール s-educ@city.suita.osaka.jp

繋ぐ→支える→発信・リードする教育センター

「観」の転換

令和6年度より、教育センターが吹田市総合防災センター（DRC Suita 内）に移転し、本格的に運営を開始しています。移転に関わり、ご協力いただいた全ての皆様に心より感謝申し上げます。

教育センターでは、移転を機に、事務室内のフリーアドレスに取り組んでいます。教育センターでは、指導主事をはじめ、市役所職員、教育相談員、発達相談員、進路相談員に加え、今年度からは教育支援教室のスタッフを加えた様々な職種の職員が協働しています。決まった机が無いことにはじめは不安も感じましたが、フリーアドレスに取り組むことによって、他職種の職員との風通しがさらに良くなり、学校からの情報なども共有しやすくなりました。

また、これまで2か所で活動していた教育支援教室「光の森」「学びの森」が統合・移転し DRC 内8階に開室しました。「誰ひとり取り残されない」「孤立・孤独を感じない」「自分らしさを発揮できる」をコンセプトに、多様性を感じられる空間をビジョンに掲げて活動に取り組んでいます。新たなスタッフの皆さんが子供たちに寄り添い、きめ細やかに支援してくださっていることで、子供たちが安心して通える場所になっています。

1学期中に多くの見学希望者を受け入れ、2学期の初めには入室者が100名を超えます。2学期からは、入室したものの、継続的な登室につながらない子供たちを対象に、メタバース空間での活動も開始する予定としており、さらに多様な子供たちの「つながり」「まなび」を大切にしたい支援に努めてまいります。教育支援教室での支援内容が、各校の校内教育支援教室での支援の参考となるよう、積極的に活動状況を発信していきます。

さらに、新しい教育センターには、先生方の研修を支えるため、5つの研修室が設置されており、ほとんどの教職員研修を DRC 内で実施できるようになりました。授業・研修用 PC を持参いただき、資料を手元でご覧いただくことができるようにしたり、アンケートの記入を PC でお願いしたり、ペーパーレス化にも取り組んでいます。何よりも、今年度取り組んでいきたいと考えているのは、「研修観の転換」です。これまでの研修は、講師の先生話を「聴く」ことが中心でしたが、これからは、先生方自身が主体的・積極的に参加し、「学びをつかみ取る研修」へと転換していきたいと考えています。もちろん、新しい知識を得ることは大切なことですが、先生方が学ばれたことを、実践してみられることや、他の先生方と共有して深めていただくことをイメージしていただけるような研修を企画していきたいと思えます。

先生方に「学びを実感できる研修」をたくさん体感していただくことで、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」を実現し、先生方とともに、「学びを実感できる授業」の創造を目指していきます。

今年度も、教育センター所員一同、一丸となって学校支援に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

吹田市立教育センター 所長

令和6年度吹田市立教育センター職員紹介

所 長	参 事	所長代理・指導主事	主幹・指導主事
主幹・指導主事	主幹・指導主事	主幹・指導主事	主幹・指導主事
主幹・指導主事	主 幹	主 幹	不登校支援研究員
主 査	主 任	係 員	係 員
主任相談員	教育相談員	教育相談員	教育相談員
教育相談員	教育相談員	教育相談員	教育相談員
教育相談員	教育相談員	教育相談員	教育相談員
教育相談員	教育相談員	教育相談員	教育相談員
教育相談員	教育相談員	教育相談員	
発達相談員	発達相談員	進路選択支援相談員	
不登校児童生徒支援員	不登校児童生徒支援員	不登校児童生徒指導員	不登校児童生徒指導員
不登校児童生徒指導員	不登校児童生徒指導員	不登校児童生徒指導員	不登校児童生徒指導員
不登校児童生徒指導員			

【連載シリーズ】子供主体の教育をめざして

第1回 わたしたちは「待つ」ことができるのか？

令和6年度 教育研究大会より

今年度は、「子ども主体の教育～はじめに子どもありき～」と題して、東京学芸大学の平野朝久名誉教授にご講演いただきました。講演の中で、子どもの心の内を価値判断をせずありのまま共感してわかってもらう「見取り」についてや、子どもには学ぶ意欲と自ら追究し育つ力があるという「子ども観」についてお話いただきました。授業等の教育活動を行う私たちにとって、原点に立ち返り大切なことを考えることができるような内容だったのではないのでしょうか。

平野先生のお話の中で、印象に残った言葉があります。今回はその中から、「待つ」というお話について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

「子どもたちの力を信じて待つ。その時間は、ほんの数秒、数十秒増やせば、十分あることが多いです。」

例えば、授業での話し合いや発表し合う場面で、子供たちが黙っているとき、先生方はどうしますか？

「時間は3分しかないから、話し合いを進めましょう」と話し合いを促したり、「さっき書いていたことを発表してごらん」と発表を促したりする声かけをすることがあるかもしれません。こういった声かけは、一見、子供の活動を促すための声かけとして不自然なものではなさそうです。しかし、この声かけを、子供を主語に転換して読み返してみると、いかがでしょうか？これらの声かけは、「話し合いや発表を沈黙なく、スムーズにすることが目的である」と子供たちに伝えることになってしまう可能性があるのではないのでしょうか。言い換えると、子供たちに対して、教員主導の授業に合わせるために話し合いや発表をするようにという指示をしていることにつながりかねません。子供たちが活発に話し合いや発表を行うことを目指すあまり、教員が何気なく行った声かけが、子供たちの主体的な学びを置いてきぼりにし、教員主導で授業が進むことにつながってしまっている可能性があります。

では、子供主体で授業が進むには、どのようなことが必要なのでしょう。

その答えの方法の1つを、平野先生から改めて学びました。それは、教員が「待つ」ことです。子供たちが何かを考えている数秒、数十秒を待つという時間と、同時に、可能であれば、子供たちが今考えていることを評価せずありのまま見取ることです。何かを考えているからこそ話し合いが始まらなかったり、発表に時間がかかったりすることはよくあると思います。子供の力を信じ、ほんの数秒、数十秒待つ、そして子供たちが今考えていることをありのまま見取る時間をもつと、子供たちの学びの様子も変わってくるかもしれません。

今回は、授業での話し合いの場面を例に考えてきましたが、「待つ」ことは、授業以外のさまざまな教育活動の場面でも、多く活用できそうですね。ぜひ、先生方同士で、「待つ」ことについて対話していただければと思います。

多く子供が考えていること、考えている場面、考えているプロセスを大切にすることが子供主体の教育の根幹です。子供たちが、自ら考えはじめ、互いに話し出すような、子供たちがワクワクしたり、悩んだり葛藤したりするような、子供たちが主体的に学ぶ教育をめざしていきたいです。

魅力ある学校づくり研究会

魅力ある学校づくり研究会では、多様な子供たち、一人ひとりにとっての魅力ある学校を目指すべく、すべての子供たちが安心して過ごすことができるよう、校内教育支援教室について研究を進めていく予定です。

校内教育支援教室と一言と言っても、各校の実態は様々です。各校ではソフト面、ハード面、システム面などそれぞれに課題を抱えている中で、いろいろな工夫をして子供たちの居場所や学習機会の確保に取り組んでいるところです。そこで、校内教育支援教室の一層の充実をはかるため、各校の課題や工夫、とりわけ校内教育支援員や居場所サポーターの配置されている学校での取組を参考にして研究を推進していきます。この研究会を通して、市内全体で校内教育支援教室とはどのような場所なのか、どの学校でも運営の土台としてするべき取組は何なのかということを発信していければと考えています。

今年度は4名の教職員を研究員として迎え、まずは市内の校内教育支援教室の実態把握と、運営上の悩みや課題を洗い出し、工夫・改善の方向性について取り組んでいきます。

インクルーシブな学校づくり研究会

今年度も、12名の教職員を研究員として委嘱し、①「社会モデルの視点から学校や社会の偏りを発見する」、②「偏りを合理的配慮や環境の整備によって是正する」、③「子どもの権利を守りながら、子どもと共に考える」、という3点を重視して研究を進めています。引き続き、飯野由里子先生*と平林ルミ先生*にお力添えをいただきながら、研究会での研究と、2校の研究推進校での実践をよりリンクさせ、インクルーシブな学校づくりに向けて研究を進めていきます。

また、令和4、5年度の研究会の成果として、インクルーシブな学校づくりを進めていく際に参考となる情報を集めた「インクルーシブな学校づくりハンドブック 2022」、「インクルーシブな学校づくりハンドブック2023」を作成し、教育センターHPやEC-NAVIに掲載しています。また、EC-NAVIには、ほかにもインクルーシブ教育に関する動画を掲載していますので、ご活用ください。

*飯野由里子先生(東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター 特任准教授)

*平林ルミ先生(東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター 特任助教・学びプラネット合同会社 代表)

研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励に関して

Plant(全国教員研修プラットフォーム)の運用が開始され、研修履歴の記録も始まっておりますが、基本的な考え方を整理いたします。

研修履歴の記録は、先生方の効果的かつ主体的な資質向上や能力開発のために行うものです。記録すること自体が目的とはならないよう留意する必要があります。Plantに記録された研修履歴でこれまでの学びを振り返り、管理職等との対話を通じて今後の教員キャリアを見据えて研修受講の計画を行う等、先生方一人ひとりが、自律的に学ぶこと、主体的に学びをマネジメントしていくことに活用してください。

受講履歴記録の目的について

(基本的な考え方)

教師が自らの学びを振り返るとともに、学校管理職等が研修の奨励を含む適切な指導助言を行うことにより、効果的かつ主体的な資質向上・能力開発に資することを目的としている。

研修の効果的・効率的な実施から離れて、記録すること自体が目的化することがあってはならない。どの研修等について記録するか、しないかという分類の議論や、記録対象とする研修等及びその記録内容に関する基準を精緻に設定することに過度に焦点化することなく、記録の簡素化を図るよう留意する必要がある。

(文部科学省「研修履歴を活用した対話に基づく 受講奨励に関するガイドライン」より)

また、対話に基づく受講奨励の意義は、各教員と管理職とが、研修履歴を活用して、目標設定面談、開示面談等で対話を繰り返す中で、各教員が自らの研修ニーズと、自分の強みや弱み、今後伸ばすべき力や学校で果たすべき役割などを考慮しながら、必要な学びを主体的に進めていくことにあります。

時代の変化が大きくなる中で、児童・生徒が主体的に学ぶことや、生涯を通じて学び続けることができる学習意欲を持つことの必要性が高まっており、教員が主体的に学び続ける姿は、児童・生徒の重要なロールモデルとなります。Plantの研修履歴をツールのひとつとして、管理職等と対話を行うこと等とおし、今後のキャリアや自ら必要とする学びについて主体的に考えてください。

さつきらるーむ

経験年数の少ない教職員のいろいろな悩みを 個別相談できるところです！

- ◆ 開室時間 午後5時00～午後6時30分（申込時 要相談）
- ◆ 場 所 教育センター他（オンラインでの実施も可能です。申込時に御相談ください。）
- ◆ 対 象 者 初任者教員等 経験年数の少ない教職員 ※複数で相談を希望することも可
- ◆ 対 応 者 教育センター指導主事等
- ◆ 内 容 仕事に関するすべての悩みを相談できます。（授業づくり・学級経営・保護者対応等、何でも OK）
- ◆ 申込方法 メールまたは電話にて申し込みください。

メール送信先 ① 初任者研修担当へ

校支援システムにて、初任者研修担当 宛

② 教育センター代表メールへ s-educ@city.suita.osaka.jp

以下の内容を記入ください。

件 名:さつきらるーむ

本 文:①学校名 ②相談者名 ③希望日時 ④相談内容